

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 4370300768 | | |
| 法人名 | 医療法人 社団 健成会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ふれあいの家御薬園 | | |
| 所在地 | 熊本県人吉市七地町21-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年3月11日 | 評価結果市町村報告 | 平成25年5月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | NPO法人 九州評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F |
| 訪問調査日 | 平成25年3月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本三大急流『球磨川』沿いに施設があり、自然が豊かな所でゆっくりと生活できる。近くに、同法人の介護保険施設があり、イベント等交流も盛んである。また、昨年から同敷地内に協力医療機関が移転し、訪問看護ステーションと合わせ更なる連携を図り、入居者・その家族の方が安心して生活できるように協力体制を構築している。施設の近くには、桜の名所など季節ごとに楽しめる場所があり、入居者の方と職員と一緒に楽しみながら活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

球磨川沿いに建つホームは自然豊富で、居室から鉄道や桜などの風景を見ることができる静かな環境である。隣接して法人の老健を含む複合介護施設の中の一つであり、他の施設と連携や交流が日常より行われている。また、医療施設も隣接し、更に充実した医療連携も構築されている。入居者のできることに着目し、日々の生活を楽しく送れるよう、寄り添いさりげないケアに努め、外出支援を多く取り入れ、入居者の希望や体調を考慮して活発な、メリハリのある生活支援を行っている。研修体制も確立しており、職員のモチベーションを保つ工夫や取り組みが実施されている。今後は家族や地域を巻き込み、更に入居者中心のホームでの生活が送られることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが | | |

シカゴ. 201

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 新たに採用した職員にも入社時のオリエンテーションの際に理念を説明し、理念の基日々のケアを実践できるようにしている。又、定期的に研修の場を利用し、全職員で検討会を実施している。 | 理念は掲示し、職員は念頭に置いて日々の業務を行っている。新人職員にも理念を説明し、「ゆっくりと、急ぐ必要はないので入居者本人が出来ることを優先する」というスタンスで職員には指導している。 | 家族の協力を取り入れた支援の実現のために、新しく入居された入居者や家族にも理念の啓発の取り組みが望まれます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の運動会や音楽会等に参加している。又、地域のお祭り等にも参加している。小中高校生のボランティア等の受け入れも積極的に行っている。 | 近隣の小学校から音楽会や運動会の案内があり、席が準備してあり出かけている。地域の行事や祭りにも参加している。小・中・高校からのボランティアを受け入れており、それぞれに合う内容を提供している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小中高校生の体験学習を積極的に受け入れている。又、地域住民からの相談に対しては、関連事業所や行政と連携し解決に向け取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、活動報告や施設の状況などの報告を行い意見交換を行っている。意見交換をもとに地域のイベントに参加や活動、業務の見直しを検討しサービスの質の向上につなげている。 | メンバーは町内会長、民生委員、行政職員、入居者、家族、ホーム職員で構成され、入居者の状況やホームでの生活の様子、活動報告などが行われている。会議のレジュメに行事や活動時の写真を添付している。会議での意見交換は情報を得ることができ、運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議を利用し、日常の状況等は説明できている。又、サービス提供上で不明な点などは相談できる関係ができています。 | 運営推進会議に出席してもらい、情報交換や相談を行っている。行政主催の研修への参加は確実にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間のみ施錠を行っている。身体拘束に関しては、拘束がもたらす悪循環を職員が理解し、日常のケアを実践できるように研修会への参加も積極的に行っている。全職員が拘束をしない意識をもって業務に従事している。 | 繰り返し研修や勉強会を開催し、職員は身体拘束の弊害を理解している。業務中でもお互いに注意し合い、言葉や薬による拘束もしていない。日中は玄関をオープンにし、出入りは自由にしている。入居者が車椅子使用时には意思確認を確実にし、様子を見極め声かけをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会や研修を通し虐待防止に努めている。又、どんなことが虐待になるか理解し仕事に従事している。管理者は、職員の健康や精神状態を把握し、声かけを実施している。 | | |

グループホーム ふれあいの家 御薬園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護についての研修を受けている職員もいるが、制度の理解においては不十分である。新しい職員もいる為、今後、内部研修等で全職員へ周知すると共にケアの向上に努めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、管理者が本人や家族の方に対し説明を実施している。特に、利用料や入院時、退居時等の不安な部分は十分に説明し理解を得て、署名・捺印をもらっている。その後の疑問等にも随時対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の生活の中で入居者やその家族と話をする機会を設け、その中で要望や意見を把握できるように努めている。玄関には意見箱を設置しており出された意見や要望があった際は、職員間で共有し日々の生活に反映している。 | 訪問時や電話でホームでの生活の状況等を報告しており、その際に要望や意見を聞いている。運営推進会議も意見を聞く機会としている。遠方の家族には月1回の請求書やケアプラン送付時に一筆添え、様子を知らせている。意見や要望は記録し、職員間で話し合い、運営へ反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 勉強会開催時に職員からの意見を聞く時間を設けている。言いにくい場合は、個別に時間を設け意見を聴くようにしている。出た意見を全職員で検討し、当施設に反映できるようにしている。 | 定期的開催している勉強会・会議の際に職員の意見やアイデアを聞くようにしている。個別に聞くようにもしており、聞く姿勢を取っている。出された意見は検討し、ホームで解決できない際には法人へ相談している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の健康診断は定期的実施している。各自が向上心を持って勤務できるよう、親睦を深める為に諸行事を開催している。職員の努力や成果について把握し、資格所得に向けた支援もしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内研修の機会は確保できている。外部研修への参加が人員配置の問題でできていない。介護に関する知識や技術は、職員間でアドバイス等働きながらスキルアップを図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ブロック会を2ヶ月に1回実施している。その中で意見交換会や親睦会、勉強会に参加している。又、法人内の他事業所とも情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人・家族の方共に見学して頂き、ご本人の問題点・家族の思い等を傾聴し安心してサービスへ移行できるよう信頼関係を構築している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | こまめに家族の方へ情報提供し、家族の不安の軽減に努め要望等も聴いている。又、その上で施設側の意向も説明し理解して頂き、出来る限り話し合う機会を設け、信頼・理解を得られるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の生活状況や性格、家族の希望等、入居前の情報を元に初期ケアプランを作成している。その後、評価を行い本人に必要なサービス・支援を見つけ出しプランの変更を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 居室の掃除や食事の片付け、園芸等入居者の方に役割意識を持って生活できるようにしている。入居者一人ひとりに対し教えてもらう場面を意図的に作り本人の自信につながるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、本人の状況や状態を報告し施設と家族の間で情報の共有を行っている。遠方の方には電話連絡を行っている。できるだけ面会時には、本人と過ごす時間を持って頂き、居室の整理や衣替え等、一緒に行ってもらっているようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前に行かれていた理髪店や商店へ出かけた時、知人が気軽に訪問できるような環境作りを努めている。又、家族へもお願いし外出や外泊をお願いしている。 | 馴染みの関係を大切に考え、入居前から利用していた理髪店やお寺参りなどに一緒に出かけている。家族にも協力していただき、外出や外泊をお願いして実現している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う利用者同士での関わりを把握しており、毎日の話し口調や表情でその日の心身状態を見極めている。孤立を防ぐ為に入居者及び職員皆で行う事ができる活動・行事等を提供している。 | | |

グループホーム ふれあいの家 御薬園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設に入所されても、本人の様子を伺う為にお見舞いや訪問に訪れたり、電話での状態把握に努めたりしている。又、家族の方とも定期的に連絡を取り、何か困った事がないかを聴くようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者に寄り添いながら、日々の生活の希望や要望を聴くように努め出来る限り希望に添えるよう支援している。意思疎通が困難な方には、毎日のケアの中で、本人に合った暮らし方とはどのようなものかを見つけ出すようにしている。 | 自分で希望や意向を伝えることが可能な入居者には寄り添い、話を聞き、記録し、要望に添えるように支援している。困難な入居者には、反応やしぐさで把握するようにし、職員間で共有し検討している。家族や関係者から情報を得ている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や前施設の職員から情報を提供してもらったり、日常会話の中から知りえた生活歴等を職員間で共有している。身につけられている技術や技能を活かせるよう支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者の方一人ひとりの生活状況・心身の状態を、毎日の生活の中で把握するように努めている。入居者の言葉や些細な行動でも普段と違う様子がみられた時は申し送り職員間で共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の状況変化が起こった場合、本人・家族の方との十分な話し合いの場を設け意向を聴いている。それをふまえて介護に携わる職員や、看護師・医師との十分な話し合いの中で本人にとっての最良の介護計画を作成するようにしている。 | 入居時には以前利用されていた居宅の情報や家族からの情報をもとに暫定の計画書を作成し、1週間ほど様子を見た後、職員の情報を加味した計画を計画作成担当者が中心となり作成している。職員全員が計画を作成できることを目指し、定期的にモニタリング、見直しを実施し、現実に即した計画の作成をしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 僅かな状態の変化でも、詳細にカルテ記入を行うようにしている。始業時に、個人のカルテ・業務日誌・食事排泄チェック表に目を通すように徹底することで情報の共有に努めている。又、それに伴う介護計画の見直しも行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の意向を尊重し、急な外出や外泊に柔軟に対応している。遠方に家族がいる方等は、職員がその役割をできる範囲で行うようにしている。 | | |

グループホーム ふれあいの家 御薬園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 花見やお祭り等に、積極的に出かけるようにしている。又、小中高校生の生涯学習を受け入れたり、地域の方がボランティア等で来園される時は、一緒に活動に取り組む工夫をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に、希望するかかりつけ医を確認している。現在、入居者9名共に隣接する医療機関を利用されており、月1回定期検診を行っている。個々の病院の通院は基本的には家族にお願いしているが無理な場合は、職員が付き添っている。 | 入居前に受診していた医療機関を継続することができるものの、現在は全員が法人の医療機関がかかりつけ医となっており、隣接しており、定期的な受診も外出・散歩の一つとなっている。隣接法人内の訪問看護と契約しており連携している。他科の受診は基本家族にお願いしている。情報は共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の些細な心身の状態変化があれば、訪問看護に電話やメールにて報告し、指示を仰ぐようにしている。又、週1回の訪問による全身状態のチェック、及び夜間の緊急時にも対応してもらえるようになっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者が入院した際には、看護サマリー等で情報提供を行っている。特記については直接看護師に伝え連携を大切にしている。入院時は、頻回に病院を訪問し状態を確認し状況把握に努めている。SWとの連携も随時行い、スムーズに退院できるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に終末期について説明を行っている。重度化に至った際には、本人や家族の意向を把握したうえで医師・看護師と連携し看取りの体制を整備している。 | 入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」(重度化した場合の対応、急性期における医師や医療機関との連携体制など)を説明している。実際には家族と話し合いを重ね、希望に沿うように対応している。職員は「看取り」に関しての研修も受講している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年消防署に協力してもらい普通救命講習を受講している。又、緊急時のマニュアルを作成しており連絡方法や対応の勉強会も実施している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 緊急通報装置やスプリンクラーを設置している。消防署の指導の基、防火訓練を入居者と一緒に定期的に行っている。又、災害時の地域連絡網があり、必要な時には協力が得られるように備えている。 | 年2回、消防署の指導を受け、入居者参加で、昼・夜想定火災避難訓練を実施している。その際に通報訓練、初期消火訓練、避難誘導訓練を行っている。災害時の地域連絡網を作成しており、地域の協力が得られるようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その人の誇りやプライバシーを損ねる言葉掛けや馴れ合いの関係になっていないか等、振り返り話し合える場を作っている。入居者一人ひとりの性格を理解し、その人が安心するような声かけを行っている。 | 入居者一人ひとりの性格を理解・把握し、その方が安心される言葉かけや、対応を心がけている。職員間で振り返りの機会を持ち落ち着いたその方らしい生活が送れるように支援している。個人情報に関しても徹底して管理している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や考えを傾聴し、表情等から本人の思いを汲みとったり、選択肢を用意する等、できるだけ自己決定してもらえるように働きかけている。その際は、分かりやすい言葉で難聴の方には字を書く等して対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | できる限り入居者の希望やその人のこだわり、興味のある事を優先して、その人のペースを大切にするように心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴後・外出時等の衣類は、自己決定して頂けるよう働きかけている。散髪は、訪問理容を利用される方や馴染みの理髪店を利用している入居者もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 可能な限り調理・配膳・後片付けを入居者の方と職員と一緒に出来るよう取り組んでいる。又、入居者の方と職員が同じテーブルで食事し、楽しく食べれるような環境作りに努めている。 | 法人の献立を参考に入居者の好みや体調を考慮して作成している。能力に応じて下拵え、配膳、下膳、茶碗洗い等件に行っている。職員は入居者と共に会話などをしながら同じ食事を摂っている。菜園では今年はキュウリやなす、トマトなどが収穫でき、食卓に上っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食時一人ひとりの食事・水分摂取量を記録し、毎月2回の体重測定を行い増減を把握している。DM等があったり少食の方には、ご飯やおかずを少なめに提供している。又、水分の入りが悪い方には好みの飲み物で水分摂取を促している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝の整容時・毎食後に洗面所へ誘導し、自力にて可能な入居者には声かけにて行ってもらい、必要があれば介助している。出来ない方には、職員で歯磨き・義歯の洗浄を行い口腔内の清潔に努めている。 | | |

グループホーム ふれあいの家 御薬園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中・夜間共に定時のトイレ誘導を行っている。見守りや寄り添う中から予兆を察知し、プライバシーや周辺に配慮し声かけ誘導している。能力に応じて、夜間帯P-トイレを使用される方もおられる。 | チェック表を用いて記録し、排泄パターンを把握しており、時間やしぐさ等を察知し、トイレへの声かけや誘導を行っている。昼間はできるだけトイレでの排泄としている。夜間はそれぞれ、時間で起こしたり、ポータブルを使用する等個別ケアをしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 申し送りや排泄表に記入する事により、排便の回数や状態を職員全員が把握出来るよう努めている。便秘の続く方には水分を多めに摂ってもらったり運動への働きかけに努めている。3日排便ない時は訪問看護に連絡し対応してもらっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には、隔日にて入浴であるが、希望に応じて毎日入浴・夜間浴・隣接の老健での温泉入浴が可能である。拒否の方には時間をずらして誘いかけを行う等対応している。 | 基本隔日の入浴としているものの、希望があれば毎日入浴、夜間、温泉等入浴支援している。拒否の場合は時間を置き、声かけしたり、雰囲気を感じて誘導するなど工夫している。排泄等の汚染時は適宜入浴やシャワー浴等対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者の生活リズムに合わせて就寝や日中の臥床を実施している。自分では出来ない方には活動量をみて休憩を促している。夜間帯は室温の調整・湯たんぽの使用(希望)を行い良質な睡眠がとれるように努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 常に最新の処方箋を一人ひとりの薬と一緒に管理しており職員がすぐに確認出来るようにしてある。又、安全に服用出来るよう支援しており、本人の体調に変化みられる時は、医師・看護師に連絡し指示を仰いでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の暮らしの中では洗濯物干し・たたみや食器拭き等その方に合わせて参加を促し一緒に行うようにしている。趣味の園芸等入居者の生活歴を活かした支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者の希望を聴き、四季折々の草花(梅・桜・ツツジ・花菖蒲・コスモス・紅葉等)を見にドライブや買い物を行っている。又、お正月には初詣・地域のお祭り・夜間ドライブで蛍を見に行ったり、入居者の行きたい所に行けるよう支援している。 | 天候や体調、季節感等を考慮して外出支援を行っている。買い物や花見、ドライブなど外出の機会は多く、入居者の楽しみの一つとなっている。日常的にホーム周辺の散歩や外気浴・日光浴、花壇や菜園の手入れなど行われている。 | |

グループホーム ふれあいの家 御薬園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と相談しながら入居者一人ひとりの希望や力に合わせて対応している。本人管理が難しい場合には事務所預かりとし職員と買い物に行く時にお金を渡して支払っていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙の利用を促したり、職員が電話で近況を報告したりする際に、本人に代わって話をしていただいている。手紙を書ける方には自ら書いていただくよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を飾ったり、雛人形や十五夜のお供え物・夏場には緑のカーテン等、常に四季が分かるような空間作りに努めている。畳の和室は家族の面会時に足を伸ばすことができゆったり過ごせるものとなっている。 | 玄関や床の間には季節の花が飾られ、雛人形やイベント時の写真などが飾られ、話題を提供している。和室の周囲は腰かけられるようにしており、くつろげる場所が至る所にある。換気や臭気、光量、音量、職員の声の大きさ、トーンにも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂での席は定着されているが、トラブルや気の合う方同士の席替え等状況に応じてセッティングしている。食堂隣談話室(畳の和室)にてお茶の時間を設けたり、廊下や玄関には腰掛けられるスペースが設けてある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族と相談しながら入居者個々の使い慣れた家具や寝具、写真等馴染みの物を持ってきて頂いている。散歩時に摘んだ花を部屋に飾ったり居心地良く過ごせる居室作りを行っている。 | 居室によりドアの色が異なり、居室内から自然豊かな景色が堪能できる。入居前から使用されていた家具や生活用品が持ち込まれている。位牌や椅子、テレビなどが配置されている居室もある。入居者が安心して過ごし易い居室作りの支援がしてある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の扉は、違う色を使用し混乱しないような作りになっている。廊下・浴室等手すりが設置しており、居室内はプライバシーを尊重し出来るだけ自分の好きなようにしてもらっている。又、掃除・整理時は入居者と共にやっている。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|-------------------------------------|------------------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 1 | 理念について職員には浸透しているが、家族・地域への啓発が不十分である。 | 家族・地域へ理念の啓発が出来る。 | ・運営推進会議や定期的な連絡等で理念の説明を行っていく。また、新規の入居者には入居時のオリエンテーションを利用し、当園の理念を説明し浸透を図る。 | 12ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。